

労使関係の正常化と組織維持を図る

社会からの組み合いつぶしを無くす

2012年1月18日 不当労勝利報告集会



キングタクシー労働組合（高橋学委員長）は、昨年11月に2年7月及ぶ長期争議が全面的に解決したのを受け、1月18日に「不当労勝利報告集会」を連合秋田中央地協とコミュニティーユニオンの協賛で開催しました。集会には裁判及び労働委員会闘争を担当した虻川高範顧問弁護士や連合秋田会長、連合中央地協議長、交運労協議長をはじめ、地域の支援労組の仲間と組合員、

総勢60名が駆けつけました。

高橋委員長は主催者代表挨拶で「闘いの中で展望を拓く」決意で全員が闘い抜いた事を伝え、「弁護士をはじめ、地域の多くの仲間の支援によって勝利できた」と参加者に御礼を述べ、「今後は社会から組合いつぶしをなくすよう地域の運動に積極的に参加して恩返しをしたい」と決意を語りました。

虻川弁護士は、規約に基づかない協定は無効であり、賃金差額請求裁判と不当労働行為救済の申し立ての2つを同時に闘ったことが早期解決の力になったことを参加者に説明し、「闘いに勝ったが組織が無くなる」であってはならず、「キング労組は、新協定の締結で他の労働条件も改善しており、労使関係の正常化と組織維持がはかられたことは大きな意義がある」と訴えました。

東海林連合会長は「キングの不当労事件を労働委員会の参与として関わり、チェックオフ拒否から10ヶ月で救済命令を出せて良かった」と挨拶。また、有谷交運労協議長は、「公共交通の安全は労働条件に裏打ちされる必要があり、労使の正常な関係なしに安全輸送は守られない」と挨拶しました。

全自交秋田地連の石川委員長の音頭で乾杯し、闘争経過や闘いの行動を振り返り、参加者全員で勝利を祝いました。途中、佐々木前委員長が御礼を述べると共に、堀川連合中央地協事務局長が不当労に勝利した秋田市内の闘いを紹介し、不当労働行為を「地域からなくそう」と呼びかけました。金持中央地協議長の1本締めで報告集会を閉じ、キング労組の闘いを教訓化し、今後活かすことをみんなで誓い合いました。